

1日目～アイスブレイクの日～

開講式

「皆さん事前にお知らせした予定とは変わりました.....」
こんな言葉から始まった10周年のNEC森の人づくり講座
オークヴィレッジコースには、北は北海道から南は長崎まで、
全国から20名の若者が台風被害も生々しい飛騨の清見村に
集まりました。これからどんなことが待っているか、不安と
期待でいっぱいスタートとなりました。

アイスブレイク

「みんなはどこから来ましたか？声を出さないで現住所を
日本列島の形で表現さい。」
いきなり端の方へ移動する人、真ん中当たりでウロウロする
人、それぞれが言葉によらない意志の伝達方法を使って一つ
の形をつくっていく。結果は関東からの参加者が多く、あま
り広くない室内で表現した列島の関東地区の密集度はまさに
首都圏！！互いの場所を確認するだけでも大変そうでした。
スタッフを含めた全員が互いのことを少しだけ知るきっかけ
となりました。

体験：オークヴィレッジツアー

オークヴィレッジショールームへ見学に出かけ“オーク流も
のづくり”の真髄に少しだけ触れることが出来ました。ここ
では「適材適所」「詭える」などの言葉が心に残りました。
また、直前に起こった台風による被災状況を目の当たりにし
て、自然の力による大きな爪痕に驚きと恐れを感じました。

ものづくり：おはし、フォーク・ナイフづくり①

オークヴィレッジでは“ものづくり”をたっぷりと体験し
てもらいます。手始めに講座期間中の食の道具づくりとして、
おはし or フォークどちらか1つを作りました。使い慣れない
道具を使って一生懸命作りましたが、まだまだ完成までには
長い道のりが待っているようです。“森のレストラン”での
おいしい食事が楽しみになりました。

実習：1人2分自己紹介

1分で自分と自分に関係のある“木”の紹介をすることは
難しいので2分紹介となりました。しかししゃべり始めると、
ついつい2分をオーバーしてしまう人達も出ました。

体験：いきている木

「この木は生(活)きていますか？」
そんな問いかけにあなたなら、どう答えますか。たくさん事
例の書いてある紙を見ながら直感で答え、その紙を持って少
人数のグループに分かれてもらいました。自分とは違う考え
方に共感したり驚いたりしながら、互いの考え方を知るきっ
かけになりました。ここで出来た小グループは今後の活動す
べてに関わっていくことになりました。





2日目～森と人の関係を考えてみよう～

ものづくり：おはし、フォーク・ナイフづくり②

前日に引き続き、一生懸命に切ったり削ったりしておはし and フォークづくり。2日掛かりで完成したモノはそれぞれの個性があふれていました。（このあと使用しては手直しが、納得いくまで繰り返されることになりました。）

実習：人にとっての森はどんな森

森についてみんなのイメージを書いてもらい、グループで集まってそれぞれの共通項などをみつけました。グループ毎の森に対するイメージや表現したいことなどを考えてもらいました。

体験：身近な森を見に行こう

これから5日間関わる森を全員で“み”に行きました。みんなが考えた森のイメージと実際の森との違いや、これから活動していくところがどんなフィールドなのか、それぞれの思いで見に行きました。そして、自分たちはフィールドのどの場所を使いたいのか候補をいくつか考えておきました。

講義：なぜ森に手をいれなければならないのか

樹種による森の機能の違いや日本の森の現状、森に手をいれることの意義や環境教育のフィールドとして森を活用するための方法やその場に込める思いなど、これからの活動に必要なことを佃より学びました。

体験：森の手入れの仕方

赤尾友和さんの指導のもと、みんなのフィールドを剪定ばさみや枝切りノコギリなどを使って手を入れました。手入れの技術的な方法やどんな思いで手を入れるのかの体験しました。

実習：森のデザイン（構想）

理論と技術を体験として学んだところで、明日以降の活動で自分たちが今日見て体験した森をどうしていきたいのか、その上で自分たちのグループが選んだ場所をどうしていきたいのかを考えました。

夕食：

2日間かけてつくった食の道具で食べる料理は、更に美味しく感じられましたが、ヒノキでつくったおはしは香りがよく、食材によってはヒノキ風味になっていました。

講義：「日本人にとっての森、世界の人々にとっての森」

稲本正さんを迎えて“森”についてのスライドショーによる講義とその後に行われた自由討議。多くの参加者にとって、直接話をすることのない存在であった人と出会、会話を交わすことは、大変興味深く得ることの多い、濃密な時間になりました。

3日目～森を手入れしよう～

朝の体操

前日に決めた朝の体操当番によるオリジナル?体操が行われました。清々しいあさに一日の始まりを告げる声と笑い声が響き渡りました。

実習：森のデザイン（企画）

グループが森に対して実際に行う作業のイメージを図などに表現してもらいました。また道具についても、昨日行った作業を元にグループで必要だと思うモノをあげてもらいました。そして、各々のグループ毎に紙面にまとめて、イメージチェックの関所と、貸し出し可能な道具の関所それぞれで厳しいチェック?を受けました。実現出来そうだと認定されたプランは、出来上がり予想図や道具リストを清書し、発表やその後の作業に移る準備をしました。

実習：森づくり・森の手入れ

いよいよ、グループ毎に考えたプランに沿って森の手入れです。作業は講座参加者4グループとスタッフグループの5つのグループで行いました。今回は玄関?となる部分はスタッフでつくりましたが、作業前の安全確認(作業手順の確認、道具の確認など)を、実演してみせました。

それぞれの想いがだんだんと形になっていくことが目に見えるため、新しいアイデアなども出て活動しながら、いろいろと変更されるところもありました。



座談会①

赤尾さんと水谷さんの2人で、環境教育活動を始めたきっかけなど話してもらい、さらに参加者からの質問などに答える形での座談会が行われました。



4日目～森から得たモノを使おう～

朝の体操

今日は“アブラムシ体操”からスタート！

実習：森に人を呼び込むものづくり

前日に引き続きひたすら自分たちの場所での作品づくり。作業になれてきた頃だからこそ、より注意しながら集中力を保っての作業。完成目指して懸命の作業が続きました。

体験：互いに体験してみよう

各グループそれぞれが作りあげた“森に人を呼び込む”ための作品を、どんな想いで作りどんな楽しみ方をしてほしいかを、実際に体験しながら発表しました。発表方法も様々で、たんとんと報告するところや劇のような発表をするところもありました。



ここまでのまとめ

佃さんよりここまでの活動で体験した「フィールドづくり」や「ものづくり」と「環境教育」のつながりや、「森の人」とはどんな人なのか、また、明日訪れる小鳥地区や先人の知恵に触れるための事前講義を行いました。



座談会②

講座修了生であり、今回スタッフとして参加している木村さんより講座の先輩として少し話をしてもらいました。その後、木村さんの提案により、話し合いたいお題を紙に書いて掲げ、参加したい人を募って話し合いが行われました。大変まじめなものからくだけたものまで様々ありましたが、みな真剣に話し合っていました。設定していた時間はあっという間に過ぎてしまい、話足りない人たちが出る程でした。四日目はすべての予定を終了した後も宿舎で熱い話し合いが行われていました。



5日目～もう一度森へ入ってみよう～

森の人と会おう

今日はこれまでの4日間とは違い、ゆったりと人や場所・モノと出会う一日。車に乗って飛騨清見ICのある小鳥地区二本木へと足を伸ばしました。

昔ながらの“森の人”＝「^ま人」である大矢さんなりわいに生業として行っている森の手入れの道具や技術の変遷、森をはぐくんでいくときの想いや今までの人生で得た教訓などを話してもらいました。

自身の育てた森の中で笑いあり涙ありのとても内容の濃い話をたっぷりしてもらいました。この話は講座参加者にとって、かなりのインパクトで心の奥に入り込んでいました。

このお話しのあと、地名である“二本木”の由来となった木の一本である太く大きなトチノキを見せてもらいました。毎年たくさんの実をつけ、今でも元気な樹齢八百年とも言われる樹は真直ぐ伸びる幹がなく内部がトンネル状になっており、比較的簡単に上に登ることが出来ます。そして登ったところは比較的平らになっており、記念撮影のために何人かが実際に登っていました。みんな大きな存在感のあるものと出会い、すっかり童心にかえってはしゃいでいました。(この樹と対になっていた樹は、造成によって失われ残念ながらありません。)

清見村の森へ行こう

余り手の入っていない自然が残っている清見村有林に行きました。森に入ると麓の部分に少し人が生活し共有林として活用していたと思われる痕が残っていますが、さらに入っていくとそんな痕跡もなくなり自然がつくりあげた光景が目の前に広がりました。途中では様々な動物の痕跡や災害の跡があり、それらをたどりながら樹齢数百年のミズナラの樹に辿り着きました。そのミズナラは、先に見たトチノキとは違い枝を天空に向けて高く大きく広がっていました。この樹の近くのそれぞれ思い思いの場所で20分ほど、今日体験したことやこれまで講座で体験したことをゆっくりと振り返ったり、自然と触合うことについて考えたり、体を休めたりなどソロの時間としました。

振り返り

今日一日を思い出しながら振り返りを行いました。



6日目～全体のふりかえり～

全体をまとめて

佃さんよりこの6日間の活動で体験した「フィールドづくり」や「ものづくり」と「環境教育」のつながりや、「森の人」とはどんな人なのかをそれぞれが確立していくための促しや、日本人（アジア人も含む？東洋的思考）や外国人（特に西洋人的思考）の「自然」の捉え方の違いから「自然観」の違い、今の日本における捉え方（考え方）を講義してもらいました。のための講義が行われました。

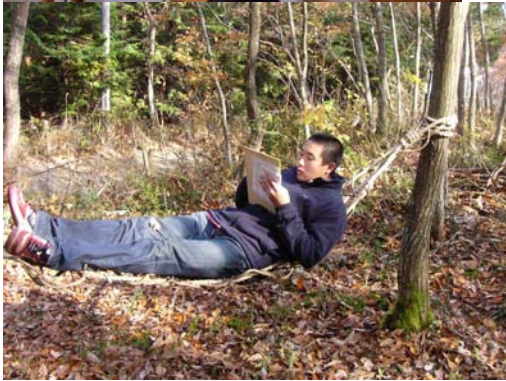
「自然」≡「ネイチャー」と「自然^{じねん}」の違いを認識した上で自分にとっての「自然」及び「自然観」とは、どんなものかを問いかけるものとなりました。

森へかえろう

いろいろなことがあった6日間。みんなと一緒に過ごしてきたフィールドとも今日でお別れ。今一番過ごしたい場所でそれぞれ体験したことを思い出しながら、ゆったりとした時間を過ごしました。

全体振り返り

最後のわかちあいの時間。この講座の始まりから今日まで、「どんなことを得たのか?」「どう活かしていくのか」を、それぞれ「決意（目標）」として表明してもらいました。



閉講式

これで最後かと思うと去りがたくなるものですが、ここはスタート地点です。想いを共有できる仲間と集える場所（メーリングリストも立ち上がっています。）を得て、それぞれの日常にむけて想いを新たな旅立となりました。